



- 1.患者さんの権利と意思を尊重します。
- 2.地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
- 3.教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

群馬県立がんセンターだより

第58号

発行：令和7年7月

発行元：群馬県立がんセンター

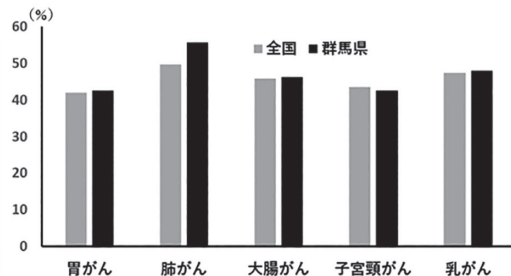
GUNMA PREFECTURAL CANCER CENTER NEWS



副院長
中村 和人

就任のご挨拶

令和7年4月1日より副院長を拝命いたしました。診療では婦人科腫瘍を担当しております。当院を受診される患者さんの約70%は群馬県在住の方、残りの30%は埼玉県北部と栃木県から来院されます。群馬県に限れば、令和3年においてがんで死亡する割合が、総死亡者の約25%を占めています。当院の第一の役割は、がんを患っている患者さんに対して治療を的確に行うことであります。一方ではがんに関わる情報（疫学、予防・検診、診断、治療法、緩和ケア等）を、適切に地域の方々に届けることも重要です。



左図は令和4年における全国並びに群馬県のがん検診受診率です。いずれのがん検診においても、群馬県は全国平均とほぼ変わらない数字ですが、子宮頸がん検診は全国平均より若干下回っています。子宮頸がん検診は前がん病変と初期がんを診断し、死亡率を有意に低下させるエビ

デンスがあります。アメリカ・イギリス・スウェーデンの子宮頸がん検診受診率は70-80%、韓国でも60%台であり、日本は有意に低率となっています。

WHOは2020年に子宮頸がん撲滅のロードマップを示しました。それによると、子宮頸がん検診とヒトパピローマ（HPV）ワクチン接種を行うことにより、2120年頃には子宮頸がんの発症をほぼ無くすことができると推測しています。検診受診率を改善するには、当院からの情報発信も当然のことですが、産婦人科はもとより他科の先生、なかでもかかりつけ医の先生方の協力が必要です。さらに学校、職場、地域の方々が参加される啓発セミナーなども開催することが重要だと考えます。またHPVワクチンは2013年に定期接種となった直後、その副作用が一種の社会問題化となり中止に追い込まれました。産科婦人科学会・産婦人科医会の働きもあり2023年に再度定期接種が再開されましたが、接種率は30-40%と依然として低いのが現状です。HPVは子宮頸がんのみならず、肛門・中咽頭がん・喉頭がんにも関与することがわかっており、世界では50カ国以上が既に男児にも接種が開始されています。

今回は子宮頸がん検診とHPVワクチンに触れましたが、婦人科がんの中で子宮体がん・卵巣がんは遺伝との関わりが深いことが、近年明らかになっています。診断・治療のみならず、婦人科がんの最新の情報についても発信を続けていきたいと考えています。よろしくお願いします。

新任医師紹介



呼吸器外科 永島 宗晃

4月より呼吸器外科に赴任しました永島宗晃と申します。私は桐生市出身で太田高校卒業後、群馬大学医学部に進学しました。昨年度までは群馬大学医学部附属病院で呼吸器外科チーフとして勤務しておりました。近年がんに対する外科治療も大きく変わり“低侵襲”が一つの大きなテーマになっております。安全性、根治性を損なうことなく、できる限り体に侵襲の少ない手術療法を提供できるよう全力で取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器外科 高橋 遼

2025年4月に赴任いたしました、高橋遼と申します。昨年までは公立藤岡総合病院で消化器一般外科の診療に携わらせていただきました。がんセンターでは大腸がんの治療を担当いたします。大腸がんの患者さんは年々増加しており、これまで培ってきた知識や技術を活かしつつ、さらに研鑽を積み、これまで以上に患者さんのお役に立てるよう、そして何よりも患者さんにご家族に寄り添った丁寧な診療を心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器外科 生方 泰成

2025年4月より消化器外科に赴任いたしました、生方泰成と申します。昨年度までは高崎総合医療センターに勤務しておりました。主に食道、胃といった上部消化管を主とし手術、化学療法といった診療に当たらせていただきます。がん専門施設に従事する者として、患者さんに信頼していただき、その患者さんにとって最良の治療を提供できるよう精進してまいります。宜しくお願いいたします。



消化器外科 内田 真太郎

本年4月1日より赴任させていただきました、内田真太郎と申します。昨年度までは群馬大学医学部附属病院に勤務し、消化器癌の集学的治療・基礎研究に携わっておりました。癌専門施設での勤務は初めてですが、多くのことを学ばせていただきながら、質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。また、患者様に真摯に向き合い、信頼される医師を目指すとともに、一人の人間としても成長できるよう努めます。何卒よろしくお願いいたします。



麻酔科 正田 望

2025年4月に赴任した麻酔科の正田望です。群馬県前橋市の出身です。昨年度までは済生会宇都宮病院で勤務しておりました。日々、安全な麻酔管理を心掛けて業務を行っております。周術期の患者様が、なるべく苦痛のないよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



婦人科 峰村 成

2025年4月より婦人科に赴任いたしました、峰村成と申します。昨年度までは群馬大学医学部附属病院で勤務しておりました。これまで勤務した施設では産婦人科として、がん診療だけでなく、産科や良性疾患、女性ヘルスケアなど幅広く学ばせていただきました。今年度からは婦人科治療を中心に、安全で質の高い医療を提供できるよう努めて参ります。患者さんやご家族の方が、安心して医療を受けられるようサポートさせていただきます。よろしくお願いいたします。



泌尿器科 小澤 優樹

4月より泌尿器科医として着任致しました小澤優樹です。昨年度は桐生厚生病院に勤務し、一般泌尿器疾患から悪性腫瘍まで幅広く経験を積みました。内視鏡や腹腔鏡手術を中心に技術を磨き、進歩する薬物治療についても積極的に学んでまいります。皆様のお役に立てるよう、精進いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



放射線治療課 深堀 修玄

2025年4月より放射線科に赴任いたしました深堀修玄と申します。昨年度までは群馬大学医学部附属病院にて勤務しておりました。放射線科医としてはまだまだ知識や経験が浅く至らない点も多いですが、チームの一員として少しでも患者さんの為になれるように日々精進して参りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。



がんになって働くことに困っていませんか

- がんと診断されたら退職しなくてはいけないのか
- 職場に病気の事を伝えた方がいいのか
- 治療のため仕事を休めるのか
- 治療中、治療後も仕事を続けたい
- 復職したいが職場に迷惑をかけないかと心配



就労支援担当の医療ソーシャルワーカー（MSW）が最初にお話を聞かせていただき、内容に応じて就労に関する専門家（社会保険労務士等）、職場の産業看護師や関係者と連携し支援していきます。実際に相談を受けた患者さんから「専門家から具体的な助言を得ることで仕事が続けやすくなった」「職場と前向きな話し合いができるようになった」「いざという時は社会保障制度を利用できると知り安心した」との感想が寄せられています。

日頃の疑問を専門家に聞いてみませんか？

今、仕事のことで悩んでいたら、是非辞める前に相談してください。一緒に考えましょう。

相談窓口は、

群馬県立がんセンター
がん相談支援センター

まで

日時：平日（土日祝日を除く）9:00～17:00

電話：0276-38-0771（代表）

0276-60-0890（直通）